

## 言語学、はじめの一步（6）

図書館のシステムがこの夏に一新されましたが、皆さんはもう使い慣れましたでしょうか。新しいシステムには「資料ID」と書かれた検索項目がありますが、これは従来「登録番号」と呼んでいた6桁の数字です。この数字を入力するだけで、特定の資料が検索出来ます。同じ資料を何回か利用したい時などは、控えておくと便利だと思います。

Q：では、前回に引き続き形態論に関してお話しを伺いたいと思います。

A：はい。ある単語に別の要素を加えて新たな語を造り出すことを語形成と言いますが、その例として今回は合成語を取り上げました。今回は複合語の話をしたしたいと思います。

Q：複合語とはどのようなものを指すのですか？

A：複数の単語が結合して作られた語のことを複合語と言います。例えば、「京都駅（＝京都＋駅）」「押し出す（＝押す＋出す）」などです。前者は複合名詞で後者は複合動詞です。これに対して、「京都の駅」のように単に単語を並べただけのものは名詞句です。英語の複合語としてはblackboard、new moon、hard-working、overworkなどたくさんあります。複数の語が結合しているにも拘わらず、全体として一語のような振る舞いをするのが複合語の特徴だと言えます。

Q：英語では二つの単語を続けて並べたり、ハイフンでつないだりとして表記の仕方がバラバラですが、何か規則はあるのですか？

A：表記方法は単語によって決まります。上で挙げたblackboardは「黒板」という複合名詞ですが、black boardとすると「黒い板」という名詞句になります。

Q：English teacherは「英語教師」と「英国人の教師」の両方の意味で取れますが、表記によっては区別ができないわけですか？

A：そうですね。「英語教師」という意味で取るなら複合名詞ですが、「英国人の教師」の意味なら名詞句になります。英語の場合は複合名詞と名詞句の違いが形態的に区別しにくい場合が多いですね。ただ、音韻的にはEnglish teacher（英語教師）とEnglish teacher（英国人の教師）のようにアクセントの位置で区別することは可能です。

Q：そうそう、学校で習ったのを思い出しました。

A：複合語と音の関係で言うと、日本語に面白い現象があります。例えば、「腕時計（＝腕＋時計）」「紙袋（＝紙＋袋）」「四条通り（＝

四条＋通り）」などがそれぞれですが、何か気付きませんか？

Q：「うでどけい（＝うで＋とけい）」「かみぶくろ（＝かみ＋ぶくろ）」のように複合語になると後ろの語の最初の音が清音から濁音に変わりますね。

A：その通りです。このような現象を言語学では「連濁（れんだく）」と言います。どのような環境で連濁が起きるのか、あるいは起きないのかについて色々規則があります。

Q：例えば、どのような規則がありますか？

A：連濁がブロックされる規則としてよく知られているのが、「後部要素に濁音が含まれている場合は連濁が起きない」というものです。「波風」は「なみかぜ（＝なみ＋かぜ）」であり「なみがぜ」にはなりません。また、「手拭き（てふき）>手を拭く」のように複合語を節にした時に、前部要素が後部要素の目的語になる場合には連濁は起きないということも指摘されています。ちなみに「乾拭き（からぶき）」は連濁します。また連濁を起こすのは和語（大和言葉）のみで、漢語やその他の外来語は普通連濁を起こしません。「紙ゴップ」は「紙ゴッブ」にはなりませんね。

Q：なるほど、面白いですね。

A：ただ、例外のない規則はありませんので上で挙げた規則に反する例はあります。反例を探してみてください。

Q：ありがとうございました。では参考図書をお願いします。

A：『単語の構造の秘密－日英語の造語法を探る－』、並木崇康著、開拓社（2009年）を挙げておきたいと思います。

今回の参考文献は、図書館本館の第一閲覧室に配架されています。請求番号は834||Namで、資料IDは538694です。本書は単語の構造、発音、意味の三部から構成されており、図を用いながら解説されています。今ではよく使われるようになった「リンスインシャンプー」といった身近な単語にも言及されていたり、章の末尾には「コーヒーブレイク」が設けられているなど、興味を持ちながら読み進められるように工夫されています。本書で単語について、掘り下げて考えてみてはいかがでしょうか。

にゅうがく なおや

（福井工業大学講師・英語学・英語史）

ふじい たつや（司書・係長・アジア関係図書館）